

奈良県立高等学校入学者選抜に関する論点整理（骨子案）

第1 奈良県立高等学校入学者選抜に係る状況

1 特色選抜の実施状況（全日制課程）

特色選抜における全日制課程の受検倍率は、中学校卒業生数減少の中、募集人員を増やしたことなどにより、低下傾向にある。

| 年度 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 募集人員 | 2643 | 2683 | 2888 | 2888 | 2688 | 2528 | 2528 | 2592 | 2792 | 2795 |
| 出願時未充足数 | 115 | 154 | 198 | 283 | 225 | 220 | 287 | 432 | 454 | 524 |
| 受検倍率 | 1.34 | 1.31 | 1.22 | 1.17 | 1.12 | 1.13 | 1.06 | 0.92 | 0.88 | 0.88 |
| 不合格者の率(%) | 28.4 | 28.3 | 23.8 | 23.2 | 18.5 | 19.6 | 16.6 | 9.2 | 5.3 | 7.0 |

2 一般選抜の実施状況（全日制課程）

一般選抜における全日制課程の受検倍率は、募集人員に対する未充足数の増加などにより、低下傾向にある。

| 年度 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 募集人員 | 5955 | 5914 | 5678 | 5603 | 5625 | 5620 | 5647 | 5352 | 4734 | 4756 |
| 出願時未充足数 | 212 | 229 | 218 | 329 | 330 | 341 | 542 | 858 | 701 | 642 |
| 受検倍率 | 1.10 | 1.12 | 1.11 | 1.07 | 1.05 | 1.04 | 1.00 | 0.92 | 0.94 | 0.96 |
| 不合格者の率(%) | 12.6 | 13.9 | 13.4 | 12.2 | 10.6 | 9.4 | 10.0 | 8.6 | 8.8 | 10.1 |

3 二次募集の実施状況

二次募集における全日制課程の受検者数・合格者数は、例年募集人員を大きく下回っている。

| 年度 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 募集人員 | 213 | 229 | 218 | 329 | 330 | 341 | 542 | 858 | 701 | 644 |
| 受検者数 | 62 | 76 | 62 | 64 | 108 | 70 | 117 | 100 | 62 | 51 |
| 合格者数 | 55 | 60 | 48 | 63 | 67 | 64 | 114 | 93 | 47 | 44 |

4 定時制・通信制（分校を除く）の入学者の状況

定時制課程のうち、特に夜間の課程への入学者が減少している。

| 年度 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 定時制課程合格者数 | 242 | 209 | 193 | 172 | 205 | 174 | 192 | 165 | 127 | 146 |
| （うち 夜間課程） | 93 | 59 | 56 | 45 | 69 | 36 | 44 | 31 | 21 | 29 |
| 通信制課程合格者数 | 67 | 61 | 70 | 80 | 100 | 70 | 77 | 93 | 92 | 96 |

5 特例措置等

(1) 帰国生徒等特例措置

中学校2年1月以降に帰国した生徒、小学校4年以上に編入した中国等引き揚げ者等及び外国人を対象に、国語の検査を作文に変更（法隆寺国際、高取国際で例年4～10名程度、独自検査も実施する国際で例年0～4名程度）

(2) 定時制課程成人特例措置

20歳以上を対象に、作文および面接を実施（例年0～5名程度）

(3) 県外中学校卒業生の受け入れ（保護者の転居等を伴うものを除く）

特定運動部指定（4校5競技）、特定学科指定（1校1学科）、十津川高校入寮希望を募集人員の15%を上限として受け入れ。

別途、指定県内スポーツ団体での活動希望者（2団体）を受け入れ。

(4) 検査等における合理的配慮

別室受検や読み上げ等の配慮を実施（例年50件程度）

6 追検査の状況

インフルエンザ等対応の追検査を一般選抜後に設定（これまで受検者はなし）

新型コロナウイルス感染症対応の追検査を各選抜後に設定（R3は受検者なし、R4は30名が受検）

7 調査書の取扱い

現行では、中学時の学習成績は、「2年生：3年生＝1：2」で取扱い。

8 高等学校におけるスクールポリシーの設定

各県立学校においては、令和4年6月末までに、スクールミッション・ポリシーを策定する。

第2 今後の奈良県立高等学校入学者選抜の在り方に関する論点

1 基本的な考え方について

1-1 自らの進路希望に基づいて高等学校の選択ができる選抜であり、かつ、それぞれの個性や能力、適性を多面的に評価される選抜であることが求められる。

また、現行学習指導要領において、学力の三つの要素を基に、すべての教科等の目標や内容が、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に再整理されていることに十分配慮することが求められる。

2 受検機会について

2-1 現在の「特色選抜・一般選抜」という選抜体系を見直し、原則として一本化してはどうか。ただし、一本化した選抜において、各学校が選抜資料やそのそれぞれの比重などを選択できる方法の検討が必要である。なお、学力検査の時期は、現行の一般選抜より早めることを検討してはどうか。

2-2 一般選抜の他に、特例的な入学者選抜として、地域内の生徒を対象とした制度を新たに設けてはどうか。また、一定の整理の上で、県外生徒対象（いわゆる「全国選抜」）、帰国生徒・外国人生徒等対象、成人対象の制度は、引き続き設ける方向で検討してはどうか。

3 選抜方法について

3-1 中学校学習指導要領の趣旨に基づき、学力検査等においては、引き続き、基礎的・基本的な知識及び技能とともに、思考力、判断力、表現力等についてもバランスよく問うことに留意し、知識及び技能を活用する力に関する出題の充実に配慮することが求められる。

3-2 各学校が「入学者受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」を定めていることから、この方針に沿った入学者選抜が実施できるよう選抜方法をより柔軟に選択できるようにしてはどうか。

3-3 引き続き、障害等のある受検生に対して、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」及び「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」が規定する合理的配慮の提供が求められる。

4 その他

4-1 入学者選抜業務の負担軽減のため、出願関係書類のデータでの受け渡しなど、ICTの活用を検討してはどうか。また、将来的には、CBTの導入も視野に入れてはどうか。

4-2 今後も、高等学校入学者選抜に関しては不断の検討が必要であり、その検討には単に入学者選抜の在り方だけでなく、高等学校教育全般の在り方にも及ぶことが考えられることから、県立高等学校教育の在り方を検討する常設の会議体を設置してはどうか。